

# 非核奈良

森本孝順(唐招提寺長老)筆

2011年  
5月15日  
第95号

発行 非核の政府を求めると奈良の会

〒630-8213 奈良市登大路町3-6 大和ビル4F

奈良合同法律事務所 気付

電話0742-26-2457 FAX26-3010 郵便振替01020-1-56459

私たちは非核の五項目を  
実行する政府を求めます

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

## 原発の危険性

### — いま、福島でなにが 起きているのか —

溝川 悠介 (専門：表面物性)

大阪府立大学名誉教授、奈良県平和委員会代表理事)

#### 1、福島原発でなにが起こったか

原発事故における緊急時作業原則は、「1、止める」、「2、冷やす」、「3、閉じ込める」である。今回の事故では、地震発生でスクラムが働き、原子炉は「止められ」たが、地震・津波で外部電源・非常用発電機も破壊され全電源喪失に陥り、崩壊熱による温度上昇を防ぐための「冷やす」ができず、放射能を「閉じ込める」のに失敗した。全電源喪失の緊急事態では、政府は一刻を争ってベント、注水等適切な指示を出さなければならないが、その初動対応に遅れ重大な事態を招いてしまった(人災)。「冷やす」ため外部から海水を放水するも、すでに破損した燃料棒・圧力容器・格納容器から放射性物質が漏出し、それらが放水した

水とともに海にまで拡散してしまった。また、水素爆発により次々と堅牢な建屋が爆破され放射性物質が大量にまき散らされ、史上最悪のチェリノブイリ原発事故に並ぶINES評価レベル7に至ってしまった。周辺環境の放射能汚染の深刻さは、野菜、原乳、イカナゴなどの出荷停止や避難指示、警戒区域指定などが次々に繰り返され、官房長官などが「直ちに人体に影響を与えるものでない」と言っても、誰も信用せず風評被害も広がり不信と混乱を招いている。

#### 2、原発と原爆の物理としくみ

原発も原爆もウラン-235など核分裂性核種に中性子を当てて核分裂を誘起し、その時放出される莫大なエネルギーを利用するものである。核分裂を一瞬に連鎖反動的に行わせ、

放出される莫大な熱、爆風、放射線で人を殺し街を壊滅させるのが原爆である。一方、原発は、同じ核分裂を爆発的ではなく継続するように、ウラン-235の割合を数%に薄め、核分裂で発生する中性子を水で吸収・減速し連鎖反応を防いでいる。同時に沸騰した高温水蒸気の力で磁石をコイルの中で回転し電気を起す。原発は、大げさで危険な核分裂を利用してお湯を沸かしているだけで、そのあとは水力や火力発電と同じです。しかも原発の未解決で深刻な問題は、人類がまだ制御できていない放射性廃棄物を大量に作り続けていることです。福島第1原発5機を1日運転するだけでなんと広島型原爆の約20倍もの核反応生成物(Xe133、I131、Cs137、Sr90、Pu239等)が原子炉に蓄積され、半減期で特徴づけられる一定期間、崩壊熱を出し続けている。それで燃料棒を冷やし続けなければ、炉心の温度が上がり、溶融が起こり過酷事故に至ってしまう。まさに今回の事故がそれで、頑丈な圧力容器等で放射能を何重にも閉じ込め絶対に外に漏れないという「原発神話」は木端微塵となり、「人災」が重なり大規模な放射能災害が現実となっ

てしまった。

### 3、放射能汚染の深刻さと見直し

現在、原発敷地内では10000  $\text{mSv/h}$  など放射線障害を起こす危険な個所もあり、また、周辺数10km圏では、自然放射線濃度(0.3マイクロSv/h)の100倍程度の高汚染地点がいくつもある。しかも、フクシマはいまだ「冷やす」、「閉じ込める」に成功しておらず、原子炉の中がどうなっているかも放射能が強すぎて調べられない状態である。すなわち、フクシマは現在進行形の危険な状態であり、何が起ころうとも不思議ではない。水素爆発の危険性、再臨界の可能性、溶融燃料が压力容器の底を抜く、金属疲労やパイプ継目など脆弱な部分から水や燃料漏れ、チェリノブイリのような炉心溶融・爆発による大量放射性物質の散布、などの危険性は依然として存在する。この危機を一刻も早く打開するためにはすべての情報を公開し、内外の研究者、技術者の英知を結集する必要がある。



## 非核平和の集いと総会

# 7月3日(日) 午後1時半～4時

(総会は1時半から2時20分)

## 講演「福島原発から核兵器を問う」

関西学院大学  
法学部教授

豊下樽彦さん



1986年のチェルノブイリ事故は、当時のソ連の指導者ゴルバチョフをして「核廃絶」の緊要性を痛感させました。翻って、人類が初めて直面する福島原発事故の深刻さにもかかわらず、日本の安全保障は米国の「核の傘」に依存するという「核抑止信仰」への根本的な問い直しの動きは見られません。こうした問題を、広い視野にたって歴史的に再検討したいと思います。

場所 奈良県文化館集会所A B

## 新防衛大綱 について

弁護士 佐藤 真理

昨年夏「新安保防衛懇」報告書が、海外派兵恒久法の制定、集団的自衛権行使は許されないとの憲法解釈の見直し等を提言し、これを受けた菅内閣は、昨年末に新たな「防衛計画の大綱」(新防衛大綱)を閣議決定した。

新防衛大綱は、中国の軍事力の近代化・強化を「地域・国際社会の懸念事項」とし、専守防衛を建前とする「基盤的防衛力構想」から「動的防衛力」の構築へ方針を転換した。

小泉内閣が定めた2004年の防衛大綱(旧防衛大綱)において、すでに自衛隊の海外派兵が実現されているも、国際平和協力業務の実施等により安定した安全保障環境の構築への貢献が自衛隊の中心的な任務とされていたが、新防衛大綱において、「世界の平和と安定への貢献」が独立して掲げられたことの意味は重大である。すなわち、新防衛大綱は、自衛隊の海外派兵を恒久化し、世界の紛争へ積極的に関与し

ていく姿勢を打ち出しており、軍事力によって世界平和に貢献しようという発想そのものが、憲法9条の立場と明確に矛盾している。

新防衛大綱では、「グローバルな安全保障環境」として、各国の相互依存関係により、「一国で生じた混乱や安全保障上の問題の影響が直ちに世界に波及するリスクが高まっている」とことと、「民族・宗教対立等による地域紛争に加え、領土や主権、経済権益等をめぐり、武力紛争には至らないような対立や紛争、いわばグレイゾーンの紛争は増加する傾向にある」との認識を示している。これは従来の防衛大綱が「安全保障」として念頭に置いていた範囲をはるかに超え、本来外交により対応すべき事項にも軍事力による対応を求めるものである。

「一国で生じた混乱や問題」が波及してくるリスクがあるとすると、それに対応するためには日本の周辺地域のみならず、世界中のあらゆる国の「混乱や問題」に関わることになる。しかも、その対象となる「混乱や問題」は武力紛争だけではなく、それに至らないような「グレイゾーンの紛争」（武力紛争に至らないよ

うな対立や紛争）にまで拡大される。結局、世界中のあらゆる国のあらゆる対立や紛争が、我が国の安全保障上の問題となりうるということになる。

このような「武力紛争に至らない対立や紛争」をどう回避し、対応するかなどということは、本来外交で対応すべき事柄である。

紛争に対し多国間の枠組みによる平和的な解決を目指す方向が世界の潮流であり、「軍事同盟から地域的平和共同体へ」が世界の流れである。軍事同盟は1960年当時は10を数え、世界人口の67%を占めていたが、現在機能しているのは、NATO、日米、米韓、米豪の4つであり、世界人口の16%に過ぎない。

北東アジアでも、平和共同体をめざして平和共存の流れを加速すべきである。分断と対立、根深い相互不信で不安定な北東アジアの国際関係の改善をはかることを最大の目標とすべきであり、憲法前文と9条を持つ日本は、その先頭に立って尽力することが求められていると確信している。



## ～ 核兵器廃絶署名をあなたも ～

谷 さゆり

昨年のNPT核兵器再検討会議では1000万筆を超える署名が集まり、「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを決めることができました。唯一被爆国の私たちの頑張りがアメリカ・フランス・ドイツなど、諸外国でも署名活動を始めさせ、会議に集まった189の国々にやる気を起こさせたのだと思います。

核兵器廃絶は簡単ではありません。達成するまでに時間はかかるでしょうが、パン・ギムン国連事務総長が「核軍縮は遠い未来の、達成できない夢ではない。私たちは必ず世界から核兵器をなくすだろう。達成するのはみなさんのおかげで、世界はみなさんに感謝するだろう」と日本人の努力を称えてくれたように、世界中の人たちの心が一つになることで可能になると思います。

今年も署名がスタートしました。「核兵器のない政府を求める」会の私たちも積極的に署名を集め、核兵器廃絶の運動に弾みをつけませんか。同封の署名用紙に集めてご返送をお願いします。

東日本大震災により犠牲になられた方、また被災されました方に心よりお見舞申し上げます。

一日も早い復興へ私達も歩幅を揃えて行きたいと思います。



死の門からガス室まで伸びる線路

昨秋、アウシュヴィッツとアウシュヴィッツ第二ビルケナウ強制虐殺収容所を訪ねた。

ナチスは戦争中に約800万人のユダヤ人を始めポーランド人や等を殺したが、約130万人がここで殺された。殺し方はガス殺、銃殺、絞首刑など様々だ。アウシュヴィッツが手狭になった為近くのビルケナウに収容所を作った。ここは兎に角広く、焼却炉は日に4576体の遺体を焼く能力があった。死の門からまっすぐ800m伸びた道の向こうにガス室と焼却

# 『今、もしも日本にヒットラーがいたら』 木村有子



遺体焼却釜（アウシュヴィッツ）

炉はある。あまりにも真っ直にのびた道はヒットラーの執念を感じさせるに充分だった。

ヒットラーの独裁とホロコイストを支えたものはなんだったのか。当時のドイツは世界的な不況の中で失業率は高く、社会不安が激しく「彼らがいるから我々の仕事がない」という不満がユダヤ人たちへ向けられる中で、ドイツ人は普通選挙でヒットラーを選んだ。ヒットラーは領土拡張のためポーランドを攻め、戦争は始まりホロコイストが行われた。これを支えたものはこのドイツ人の不安、不満と中世からの差別意識ではなかっただろうか。

いま、日本の現状を見ると当時のドイツと似ているように思われる。

不況と失業率の高さ、非正規雇用、派遣切り……そこに起きた東日本大震災と福島原発事故はますます困難な状況を作り出している。このような中で行われた統一地方選挙の、石原氏の開票前当確や橋下氏率いる維新の会の大躍進はなんだろう。日頃から右寄りの独裁色が強く東京湾に原発を造ってもよいという石原氏を東京都民は選んだ。維新の会はその名から司馬遼太郎が描く輝かしい明治維新にノスタルジーを感じたのだろうか。もし、この選挙にかつての小泉氏やヒットラーが立候補していたらどうだっただろうか。

この困難な中で、日本人が強烈な独裁者を指導者に選ばないとは限らない。その意味で、今日本にヒットラーに匹敵するカリスマがいないことは幸いだった。

しかし、とても危うい。今、我々に自己を確立することが求められている。

## ◇ 私のひとり言川柳

よし子

両の手をあなたのために

あけてある

この青を彼方の空へ

届きたい

## ☆活動日誌（2011年）

- 2月22日 事務局会議
- 3月15日 第141回常任世話人会
- 4月21日 事務局会議

## ☆今後の予定

- 7月3日 非核平和の集いと第25回総会

## ☆編集後記

3月11日東日本大震災を襲った震災、そして福島原発の恐るべきコントロール不能事態。原発の周辺に住み、そこで働いてきた人たち、漁を糧としてこられた漁民の方々、海に棲んでいるすべての生物を思うと無力感と自責の念。福島だけではない、快適さと引き換えに危険と隣り合っていると思うと日本全体でライフスタイルを見直さないと問題は解決しないと思った。日本のエネルギー政策が見直される時期でもあり、政府の浜岡原発の停止要請は、第一歩になるのでしょうか。非核の会としても反核兵器だけでなく原発についての態度を決めるべき時になると思います。

今号は特に読み応えのあるタイムリーな原稿満載です。どうぞ皆様からもご意見ご感想をお寄せ下さい。

岡谷よし子（常任世話人）